

ひらいた門

見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。 黙示録 3 : 8

VOL.03-04 NO.025 2011年4月

チャーチ・オブ・ゴッド

川崎南部キリスト教会

〒210-0025 川崎区下並木66

TEL&FAX 044-233-3648

Eメール:nanbu-kyokai@nifty.com

URL:<http://kawasaki-nanbu-kyokai.com>

「共感とぬくもり」

橋本幸夫

「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」(ローマ12:15)。

福島県いわき市の被災地に住んでいる私の友人から、3月16日にはがきがとどきました。

〈生きています。家も無事、なんか突然「秋」になった感じ！みことばは生きています！！〉。

被災地の方々のために、共感をもって祈らねばならないと痛感しています。

ある方が入院中、幾夜か眠れない日が続いたので、そのことを主治医に訴えられたそうです。すると医師の答えは次のようでした。〈では、お薬の量を増やすか別の薬を出してみましょう〉。

同じことを病室を訪れた看護師に話したところ〈そう辛かったですよ。夜が長く思われたでしょうね〉という言葉が返ってきて、その人は救われた思いがしたというのです。

主治医の応答は、妥当で非の打ちどころのないものだったに違いありません。でも、それは職業的な処置であって必ずしも患

者の心の痛みを癒やすものではありませんでした。それに比べて看護師の応答には共感とぬくもりがあったのです。

私たちの日々の生活の中には、〈不親切ではないけれども親切でない〉ものが結構多いのではないのでしょうか。共感とぬくもりに欠けていることが！

花粉症で多くの方が悩んでいるきょうこの頃です。〈昨夜は鼻が詰まって夜中まで眠れなかった〉とよく聞きます。それに対して〈薬をちゃんとのんでいるの?〉と答えることがあります。そういうときこそ〈辛かったですよ〉と言いたいですね。

自動販売機でほしいものが手に入り、コンビニ、スーパーのレジで、無言のうちに勘定が済ませられる世の中になればなるほど、人間から言葉のぬくもりが失われていくのです。

人間の夜眠れなかった辛さ、苦しさが薬の処方だけで解決されようとする世の中は、味気ないだけでなく恐ろしい世の中です。

不親切でないことに安心しないで、進んでもう少し親切になること、他人の心の痛み共感できる私たちになりたいものです。